

# 2024 年度 蘇遙会情報誌

熊本大学工学部 土木建築学科土木教室 蘇遙会



[発行]

蘇遙会事務局

〒860-8555

熊本市中央区黒髪 2 丁目 39 - 1

熊本大学工学部土木建築学科

土木教室内(月・火 10:00~16:00)

Tel: 096(342)3544

Fax: 096(342)3507

E-mail [soyoukai@kumamoto-u.ac.jp](mailto:soyoukai@kumamoto-u.ac.jp)

HP <https://www.web-dousoukai.com/soyoukai/>



2024 年 9 月 1 日発行

於:熊本大学黒髪南キャンパス

## 2023 年度「社会と企業」実施報告

2023 年度 1 年担任 金 洙列

ご存知のように、2018年度より土木建築学科には土木工学教育プログラム、地域デザイン教育プログラム、建築学教育プログラムの3つが用意され、各プログラムへの配属は成績と希望に基づいて2年次から行われる仕組みが継続されています。今年度も、1年次に用意された専門科目は、土木分野にも建築分野にも共通する専門基礎科目となります。2017年度から工学部が必修科目として設置した「社会と企業」という科目は、在京の熊本大学工学部の同窓会である山水会が実施している3年生を対象とした出前講義とは別の正規の専門科目です。

工学部に入学してきた学生に対し、自分の将来へのビジョン、ロードマップ作成のヒントを与えるためには、やはり社会の第一線で活躍されている卒業生による熱意が一番有効であるということで、当時の工学部執行部と各分野の部会とで協議し、本科目の設置が決定されました。2023年度は、当学科から山水会に依頼し、人選を行っていただきました。山水会の菊池良介土木部会長と下川弘建築部会長が大変に熱心に本科目のコーディネートを検討いただき、表に示すような授業を1年生に提供することができました。卒業生の皆様には、講師として7回分の授業を担っていただき、その中で土木・地域デザイン分野に4コマ、建築分野に3コマずつ授業回数を分担しました。土木・地域デザイン分野に限って申し上げますと、土木全般、公務員の仕事、コンサルタントの仕事、ゼネコンの仕事、先端土木技術というシナリオを考えていただきました。菊池部会長には、何度も電話で連絡を取り合いながら、何度も熊本まで足を運んでいただきました。その熱意は、講師をしていただいた皆様にも伝播し、どの講演も1年生目線で準備されたともわかりやすいものでした。そして、この講義を通して、入学後から土木系に進もうと考えていた学生はますますその決意を固めたようです。

最終的に2023年度は土木工学教育プログラムに39名、地域デザイン教育プログラムに27名の学生が配属されることになりました。旅費が自己負担にもかかわらず、お忙しい中母校の熊本大学まで足を運んでいただき、各分野の貴重な話を後輩である新生に講演していただいた7回分の講師の方々には、「将来の人材育成のため」という当科目の目的を共有いただけたことに、教員一同心より感謝しております。本当にあ

りがとうございました。これからも土木・地域デザイン分野への進学を目指す優秀な人材の確保に全力で頑張りたいと思います。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。



菊池良介土木部会長の講義の様子

講義回数	日程		内容	担当
	月	日		
1	10/2		ガイダンス	学科(山口・金)
2	10/16		学科と企業	学科(渡部(土木)、藤本(建築))
3	10/23		土木の仕事全般	菊池良介氏(山水会土木部会長)
4	10/30		学科と就職	就職支援課
5	11/6		建築の仕事全般	下川 弘(山水会建築部会長)
6	11/13		公務員の仕事、防災、河川管理、ダム改造	廣松洋一氏(国土交通省九州地方整備局 鶴田ダム管理所長)
7	11/20		キャリアデザインセミナー	日本技術士会 熊本県支部
8	11/27		建築意匠設計の仕事と海外プロジェクト 設計監理という仕事	三好信治氏((株)日建設計 大阪オフィス 監理部)
9	12/4		就業支援講座	熊本県社会保険労務士会
10	12/11		建設コンサルタントの仕事とインフラ分野におけるDX推進への挑戦	小林優一氏(八千代エンジニアリング株式会社 事業統括本部 国内事業部 河川部)
11	12/18		ゼネコンの建築構造設計の仕事(建築)	古庄祐子氏((株)安藤・間建設本部 建築設計統括部)
12	12/25		地方社会における企業	地域創世 Co デザイン研究所
13	1/15		建設会社の仕事(土木)、最先端土木技術、100年後の日本	吉弘英光氏(鹿島建設(株) 常務執行役員 東京土木支店長)
14	1/22		グローバル社会と大学	大学教育総括管理運営機構
15			総括	学科

## ご挨拶

蘇遙会会長 山尾 敏孝

蘇遙会会員の皆様におかれましてはお変わりありませんでしょうか。今年も蘇遙会の情報誌を作成できましたので、是非目を通していただき、ご感想やご意見等をお寄せしていただければと思います。工学部において、学生達が自主的に活動を継続しているのは蘇遙会だけであり、唯一の貴重な学生活動です。蘇遙会活動を通して土木系の卒業生と現役の学生及び教職員をつなぐものであり、交わるきっかけを作る場や親睦を図る場として、交流活動を活性化して盛り上げて欲しいと思います。

昨年は、各地で工業会の支部総会が開催され、出席する機会がたくさんあり、多くの土木系の卒業生の皆様にも参加していただき感謝申し上げます。総会後の懇親会では、土木系卒業生の間に入り、久しぶりの方、良く顔を合わせる方など様々な同窓にお会いしました。最近の熊本の TSMC の話から昔の学生時代の話、活躍した話などではずみ、良い交わりができました。中には大学の学生達にも聞かせてあげたい話もあり、このような卒業生と学生達が接する機会が多くなればと思いました。また、12 月に開催された東京支部の「山水会社会人シンポジウム」は、社会人経験の浅い同窓生がパネリストとして登壇し、自分の活躍している状況の発表がありました。社会人としての成功・失敗体験や、今後の抱負等を発表し、先輩同窓生が良きアドバイスをを行っていました。このような機会は、今後の成長になり、他の同窓との交流を生む貴重な機会となる気がしました。

今年の蘇遙会運営委員会の構成は、運営委員長は佐藤晃教授（学科代表）、土木教室の2年生担任は金洙列准教授です。また、学生部は、学部3年の仁戸田尚部長、須藤翼副部長ら6名です。運営委員会は5月31日に土木系会議室にて、東京支部の坂西さん、大阪支部の高岡さん、福岡支部の大石さん、大分支部の安藤さん、宮崎支部の西野さん、熊本支部の上月さんらに参加していただき、対面で開催しました。終了後の懇親会では、先生、学生及び先輩方との楽しく、意義ある交流ができたようです。

最期に卒業生の皆様には、現役の学生達に役立つ話題や励みの言葉を蘇遙会情報誌へ是非投稿していただきますようお願いいたします。

会員の皆様には、今年も蘇遙会並びに工業会のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

## コロナ禍を超えて新たな活躍の場へ

蘇遙会運営委員長 佐藤 晃

卒業生の皆様には、日頃から本学・本教室へのご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございます。令和6年度より土木建築学科学科長および蘇遙会運営委員長を仰せつかっております佐藤でございます。蘇遙会および土木教室のますますの発展に向けて、微力ながら尽力したいと存じます。

まずは教職員の異動についてご紹介いたします。これまでも当教室の河川／流域デザイン研究室でご活躍いただいておりました皆川朋子先生が、令和6年4月より教授に昇任されました。また、学外からは新たにお二人の先生をお迎えしました。まず、平成20年に大谷研究室を修了され、その後、港湾空港技術研究所などで勤務された高野大樹先生が同年4月より准教授として着任されました。また、同年3月に早稲田大学を修了されこの4月より稲垣直人先生が助教として着任されました。今後、当教室での先生方のご活躍を祈念しております。

令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行されたことを受け、蘇遙会活動をはじめとした当教室のすべての活動、さらには土木学会西部支部研究発表会などの学会活動もすべてコロナ禍前の状態に戻ることができました。約3年間の空白期間はございましたが、特に蘇遙会 OB・OG の皆様には現役学生に直接講義や講演を頂く機会も増え、将来の自分の姿を描く貴重な材料を提供していただけていますと感じております。また、蘇遙会運営委員会では学生委員に対して OB・OG の皆様から暖かいご声援をいただき、学生委員も身の引き締まる思いで今後も充実した活動を行ってけるものと期待しております。

一方で報道でも大きく取り上げられているとおり、世界最大の半導体受託製造企業である TSMC が熊本に進出し、その人材供給の要として本学工学部が大いに期待されているところでもあります。土木教室としては、半導体製造では必須となる地下水の保全や、企業を中心としたまちづくりあるいは交通政策などの幅広い研究分野での活躍が大いに期待されているところでもあります。

蘇遙会の皆様にもインターンシップや各種講演会など様々な形式でご支援をいただくことになろうかと思いますが、今後とも引き続きどうかよろし

くお願いいたします。末筆ながら、蘇遙会の皆様の益々のご活躍を祈念しております。

寄稿

## 昭和 44 年入学生にとって

土木工学科 昭和 48 年卒 諸藤 元信 氏

昭和 44 年入学生にとっては、熊本大学全体の入学式は学園紛争で中止となりました。それでもクラス仲間の交流は盛んで、土木、クラブ、下宿の 3 つの歓迎コンパをだいたい経験しており、卒業までに試験突入コンパ、追い出しコンパ、追い出されコンパと飲むためにやった様なものでした。クラ討、運動会（昭和 45 年から再開）、女子大との合ハイ等があり、また 1 年生からコンクリート、測量、水理、土質と専門科目の講義がありました。

卒業してからは、全国各地で恩師をお呼びしてのクラス会を開催しそれぞれの近況を報告し、お互い励ましあって来ました。40 名ほとんどが体育系クラブに所属し、それぞれのクラブで先輩、同期、後輩としてのあり方や言動、対処の仕方を学び身につけてきたと思います。また、携帯電話、スマホがない時代だったので、昼夜構わずそれぞれの下宿の部屋を訪れて色々徹夜も厭わず語り合ったものです。それから卒業後、クラス会名をいち早く「金峰立田会」に決めました。勤務先移動や、住所変更等があれば必ず連絡し、同窓の勤務先や住所の最新版を逐次メールで連絡する係りがいたことが大きいと思います。これらの事が個人個人は色々な都合がある中で、卒業後 50 年経ってもコンスタントに 25 名前と高い参加率を維持できた「源」だと思います。



就職活動は、高度経済成長期でもあり 40 名に対して求人は 150 社近くありました。社会人になってからは、東京、福岡等の土木の山水会同窓会に参加してきましたが、昭和 20 年代、30 年代に卒業された先輩方も多数参加されており、熊大の伝統息吹を沢山いただき、かわいがってもらいました。

若い卒業生の皆さんは、職場、自宅周辺の近くにいる仲間と連絡を取り合って、また、出張宿泊等がある場合は近くにいる仲間と事前連絡しあって情報交換をしていく努力を惜しまないで下さい。利害損得のない学生時代の仲間が「何物にもかえがたい一番の宝物！！」です。

※蘇遙会のホームページに掲載できなかった写真を載せています。

『トップページ> 会員> 寄稿> 諸藤様からのご寄稿』



## 迷ったら前へ

土木工学科 昭和 58 年卒 瀬戸長 秀美 氏

私は、昭和 58 年 3 月に土木工学科を卒業し、宮崎県庁に就職しました。

初めて道路建設担当となった日南土木事務所では、橋長 112m の架橋、前後の道路を含め供用開始まで担当しました。自分が担当した橋梁を車で通れることの嬉しさは、忘れることができない格別なものでした。



平成 7 年 1 月 17 日に発生した阪神淡路大震災では、震源近くの神戸市街地の復旧応援のため、平成 8 年 4 月から半年間、神戸土木事務所へ派遣されました。全国から私を含め 25 名が派遣され、中小河川改修事業や河川災害復旧事業を進めるなかで、災害時のインフラ復旧の重要性を肌で感じることができました。

また、工事中の明石海峡大橋を案内して頂き、普段立ち入ることができない管理用通路を通り、海面上約 300m の塔頂に上がり、360°の絶景パノラマも体験できました。

県庁生活最後の 2 年間は、県土整備部長を務め、県総合運動公園の避難高台や一ツ葉有料道路の有料継続など様々な課題もありましたが、職員の皆さんに支えられて無事に解決し令和 2 年 3 月に県庁を退職しました。ここまで、公務員生活を支えてくれた先輩、同僚、家族に感謝しています。

退職後は県庁で培った経験を活かし、宮崎県建設技術推進機構、宮崎県道路公社でお世話になりました。令和 4 年度からは、縁あって西日本技術開発（株）に勤務し、全建緑陽会（宮崎県土木部及び県土整備部技術職員の退職者）に入会しました。

今年度からは全建緑陽会会長を務めており、災害復旧エキスパート部会をはじめ、ゴルフ部会、ボランティア部会などさまざまな活動をしています。また、宮崎県砂防ボランティア協会にも所属し、市町村へ出向

き土砂災害防止講座などに参加しています。

私生活では、7 歳と 3 歳の可愛い男の子の孫がいます。お世話係長を拝命し、週末に遊びに来た際には、キャッチボールやサッカー、トランプや野球盤などに励んでいます。

今後は、健康を一番に、ほどほどの仕事とゴルフの二刀流で頑張っていきたいと思います。

学生の皆さん、初心を忘れずに、前向きに「迷ったら前へ」

## これまでの振り返りと近況報告

土木工学科 昭和 58 年卒 新原 力 氏

私の職歴について申し上げます。1983 年 4 月～2019 年 8 月 東亜建設工業(株)入社～60 歳にて定年退職、2019 年 9 月～(一財)港湾空港総合技術センター(SCOPE)に転職、今年で 65 歳になります。

学生時代は、土質と水理に大変苦労しましたが、何とか 5 年で卒業できました。工学部運動会が特に印象に残っており、当時は土木工学科の連覇が続いていました。自分たちの代で負けたら大変と後輩たちも頑張り、5 年次まで連覇を継続し卒業できたと記憶しています。

就職先は先生に勧められたマリコンの東亜になりました。意外にも最初の 5 年は大阪で民間陸上工事の設計・施工を担当し貴重な経験となりました。その後関東に異動し主に海洋土木工事の施工を担当しました。振り返ると一番の思い出は、羽田空港 D 滑走路建設工事の経験です。この工事は一般的な公共工事と異なり、民間のノウハウを最大限活用することを目的に、過去に前例のない技術提案による性能規定型の設計・施工一括発注方式が採用されました。施工位置が多摩川河口のため、技術的に異なる 3 工法（栈橋工法、埋立・栈橋組合せ工法、浮体工法）から公募され、一般競争入札を

現在の羽田空港 D 滑走路全景(着陸時に撮影)



経てゼネコン・マリン・鉄鋼 15 社による JV が「埋立・栈橋組合せ工法」で受注しました。私はその一員として入札前の計画から竣工まで約 8 年間従事しました。工事の内容は、浮体工法との競争の結果、工期が非常に厳しく着工後 2 年間は 24 時間施工を強いられ、正月返上で大晦日深夜に鋼管杭を打設したことが思い出されます。数多くの課題があり不安で眠れない夜もありましたが、無事工期内に竣工できたことが今でも土木屋としての誇りです。施工会社は仕事がハードで敬遠されがちですが、地図に残る「もの造り」の喜びを実感でき、この仕事を選んで良かったと思っています。

SCOPE 転職後は、70 歳現役を目標に港湾工事の発注者（国）支援業務に従事しています。



今年 3 月九州一周ツーリングにて

プライベートでは、7 年前に学生時代好きだった大型バイクにリターンし、ほぼ毎週末ツーリングを楽しんでいます。最後に、蘇遙会と母校熊大の益々のご発展をお祈り致します。

## 置かれた場所で咲きなさい

土木環境工学科 平成 5 年卒/7 年修了 河本 栄士 氏

私は 1990 年に大阪府立高専（現：大阪公立大高専）卒業後、2 年次に編入学し、当時の大学院修士課程修了までの 5 年間で熊本で過ごしました。当時、高専編入生は高専での一般教養科目単位認定の関係上、2 年次編入（出身高専によっては 3 年次編入）となっており、私は幸いにも 1 年長く学生生活を送ることができました。ただし、翌年度より、高専編入生はすべて 3 年次編入に制度変更され、1 年後輩が同じクラスに編入してきましたが。

私は当時の日本道路公団（平成 17 年の分割民営化後は西日本高速道路株）に入職しました。幕張・霞が関・高松での研修後は松山

道（川内～伊予）の建設事業に携わり、平成 8 年土木学会田中賞を受賞した重信高架橋をはじめ、自分が手掛けた高速道路の開通に立会えたことは私の貴重な財産です。

その後、京都縦貫道や阪和道の 4 車線化拡幅事業、保全事業では今の新東名・新名神ができる前日本の物流の大動脈であった東名高速をはじめ、阪和道や第二神明道路、そして現在は来たるべき南海トラフ地震に備えるべく、高知県民からの期待も大きい「命の道」高知道の管理に携わっています。大阪ではお客さまセンター、広島では道路管制センター、福岡では広報部門など各地の異動とともに土木に限らず、いろんな経験を積ませていただきました。しかし、会社人生で脂の乗る 30 代に事務系の交通管理・お客さまセンター・広報と長く在籍し、40 代にあらためて土木に戻ってきたとき、自分がどこか中途半端でエキスパートと言える強みもない中、会社から見て私が傍流であることを痛感しました。自分の会社人生も折り返しをとうに過ぎ、一時期、今後の自分の進むべき方向性に迷いがありましたが、これは「置かれた場所で咲きなさい」ということなのだ、自分を鼓舞しました。

人間というものは何を残すかで評価されると思いますが、私は思うには「人を残す」のが一番ではないかと思っています。私が言うのもおこがましいかもしれませんが、私と関わった部下たちも日を追うごとに随分と成長したと実感します。その点では少しは貢献できたかな、という心境です。

また、世阿弥も「初心忘るべからず」と「何事においても、習い始めのときの謙虚で真剣な気持ちを失ってはならない」と仰っています。健康で仕事ができることに感謝の気持ちを失わず、これからも精進したいと思います。どうか皆さんも健康、特に怪我には充分気をつけて、ほどほどに頑張ってください、仕事だけじゃない、自分らしい日々をお過ごしください。



## 私のこれまでと経験を通して

環境システム工学科 平成 15 年卒/17 年修了

柿原(立道) ゆり 氏

大本（河川環境）研究室に所属し、平成 17 年 3 月に大学院を修了しました。四大河文明が好き、マスターキートンが好き、考古学者になりたいと思っていた時期もありましたが、学部のインターンシップで建設中の岐阜県徳山ダム（水資源機構）の現場を経験し、川への興味関心が高まりました。また、大本研究室で、川を愛する先生や先輩方の姿を目の当たりにし、私も川に魅了され、河川系に強い会社として紹介された建設コンサルタントに入社しました（入社できました）。現在は、河川環境を専門に、河川環境の整備と保全、かわづくり・まちづくりの仕事に従事しています。四大河文明と繋がるよね、と思っています。

入社して 19 年目です。昨今の働き方改革なんて言葉が出る前は、働きすぎで苦しい時代もありましたが、先輩方や同僚のおかげで何とか乗り越え、今は、子供 3 人抱え、仕事と家庭のバランスをどのように保っていくか、また、自分の精神状態をいかに穏やかに整えるか、が目下の課題です。

この 19 年で「その時々で考えは変わる」ということを経験しました。例えば、育休中は 1 日も長く子供と過ごしたい、と思っていたのに、働きだしたら、あれもやりたい、これもやりたい、と全然違うのです…気持ちが。なので、その時々で立ち止まりすぎず、ある程度は流されることはあっても、前向きに生きていくことが大事だな、と思うに至っています。ポジティブ夫はいつも、「迷ったら前に出る」と私に言います。大事なことだと思っています。

これから社会に出る学生さんには、「自分の考えに固執しすぎないで」と伝えたいです。もちろん、しっかり自問自答することは大切ですが、自分



の世界（考え）とは違う世界にたくさん触れることで、新しい考えが生まれってきます。

ちなみに、最近では、後輩が入社し、「ジェネレーションギャップを感じ、学ぶおしゃべり時間」がとても楽しく有意義です。

## 出前講義レポート



## 2023 年度 蘇遙会学生部部長 中村 優志

2023 年 12 月 8 日に熊本大学土木建築学科 OB・OG の方々のご協力のもと「出前講義」を行いました。今回は学部 3 年生を対象にしましたが 4 年生や大学院生にも参加していただきました。

はじめは私たち学生部も出前講義とは何をするのか全くわからないまま計画を進めていましたが、先輩方が積極的にアイデアや指示を出していただき開催することができました。出前講義の内容は講師の数名がそれぞれの分野を代表して仕事内容を紹介したのち、グループワークを行い、最後にアンケートで集めた質問に回答する形式で行いました。多くの質問が出ていましたが、特に 3 年生からは就職活動に関する質問が多く寄せられ、出前講義を開催して良かったと思いました。

これまで学生として講義を受ける方の立場であったためわかりませんが、講義の内容や構成を考えるには多くの労力がかけられているのだなと感じ、一つ一つの講義の価値、学生として学ぶことのできる環境の尊さを知ることができました。また、今回は対象の学年を 2 年生以上にしたらどうか、開催時期は適切であるか、など改善点が見つかったため、来年度はより良い出前講義ができるように努めます。

## 支部だより

支 部	担当者氏名(卒年 G:学部/ M:修士または博士前期/ D:博士後期) メールアドレス	支部報告
東 京	坂西 由弘 (G2006年/M2008年) sakanisy@kajima.com	東京支部では、令和 5 年 11 月 25 日に対面の支部総会を開催しました。また、翌月の 12 月 8 日に、蘇遙会の学生と協力して対面方式で出前講義・懇親会を開催し、学生と卒業生との交流を深めました。令和 6 年度は、10 月に支部総会を開催する予定です。徐々に、卒業生の交流を活性化させていきたいと思っております。
大 阪	高岡(宮田) 次義 (G1977年) tsugiyoshi.takaoka@okumuragumi.jp (8月に交代予定)	大阪支部は後藤支部長以下 4 名の幹事です。昨年は土木部会の総会は開催しませんでした。11 月に開催されました工業会大阪支部総会に 11 名参加しました。今年度は 8 月に幹事会を開催し、土木部会の総会開催について決める予定です。
福 岡	大石 研一郎 (G1994/M1996年) ooishi9286@yahoo.co.jp	福岡支部では、今年度の土木部会総会を下記のとおり予定しています。 ○令和 6 年 11 月 6 日(水)18 時～ 於：博多サンヒルズホテル 昨年度は、大学から先生方や学生の皆様、支部からも多くのご出席を頂き、盛大な総会を開催することができました。今年度も、総会開催に向け準備を進めておりますので、多くの皆様の参加をお待ちしております。
佐 賀	岩橋 良憲 (G1999年) iwahashi-yoshinori@pref.saga.lg.jp	今年度は 9 月に 5 年ぶりの工業会佐賀支部総会懇親会を開催する予定です。これまで土木系の出席者が大半を占める状況ですので、久々に蘇遙会メンバーと情報交換ができることを楽しみにしております。これからも工業会佐賀支部とも調整し、年 1 回は集まれる機会を設けたいと考えております。転勤等で佐賀県内の勤務となられた方がいらっしゃいましたらぜひご連絡ください。
大 分	石和 徹也 (G1991年) ishiwa-tetsuya@pref.oita.lg.jp	4 年に一度の熊大工業会大分支部総会を 1 月に開催し、山尾先生から工学部の近況と通潤橋国宝指定の話をしていただきました。参加者 70 名の内土木会員は、48 名と大半を占めております。今後も幅広い交流を目指し、活動に取り組んでいきます。なお、総会の案内が届かない等ありましたら、遠慮なくメールでご連絡ください。
長 崎	三道 千工 (G1999年) chie.sandou@pref.nagasaki.lg.jp	昨年は 9 月に長崎市で熊本大学九州連合同窓会、11 月に 5 年ぶりの熊本大学工業会長崎支部総会が開催されました。また、今年の 5 月にクラスメイト 10 名と約 10 年ぶりに福岡市でプチ同窓会を行いました。さらに 8 月には、息子と熊本大学オープンキャンパス(工学部)に行く予定です。今後、支部の皆様とお会いする際に、これらのこともお話できればと思っています。
熊 本	愛甲 翁士 (G1999年) hi.aikou@gmail.com	熊本大学工業会熊本支部土木部会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、活動を自粛しておりました。今年度は、新社会人歓迎会等の再開を目指しております。皆様の参加をお待ちしております。よろしくお願い致します。

愛媛	羽倉 伸一 (G1989 年) hagura-shinichi@pref.ehime.lg.jp
山口	原田 光 (G1992 年) h3a1r4a1d5a9k2o6u@gmail.com
北九州	大久保 賢介 (G2004 年) kensuke_ookubo01@city.kitakyushu.lg.jp
宮崎	西野 貴之 (G2013 年/M2015 年) nishino-takayuki@pref.miyazaki.lg.jp
鹿児島	坂元 圭一 (G2010 年/M2012 年) keiichi-sakamoto@pref.kagoshima.lg.jp

各支部の  
連絡担当者です。  
お問い合わせ等は  
メールにてご連絡  
ください。



◆都道府県別蘇遙会会員数  
(登録自宅住所で分類)

2024 年 7 月 2 日現在(物故者除く)

北海道	6	京都府	25
青森県	2	大阪府	82
岩手県	0	兵庫県	66
宮城県	11	奈良県	10
秋田県	0	和歌山県	5
山形県	0	鳥取県	4
福島県	2	島根県	7
茨城県	15	岡山県	12
栃木県	3	広島県	61
群馬県	8	山口県	60
埼玉県	49	徳島県	3
千葉県	89	香川県	4
東京都	152	愛媛県	21
神奈川県	94	高知県	4
新潟県	4	福岡県	934
富山県	0	佐賀県	128
石川県	2	長崎県	188
福井県	2	熊本県	852
山梨県	3	大分県	243
長野県	1	宮崎県	155
岐阜県	5	鹿児島県	147
静岡県	5	沖縄県	10
愛知県	37	国外	4
三重県	6	不明・その他	823
滋賀県	8	合計	4,352

◇物故者◇

2023 年 7 月～2024 年 6 月にご連絡があった方を掲載しています。  
卒年は蘇遙会正会員となった卒業・修了年、( )内は没年月日。

■熊本高等工業学校

S19 年卒 南 芳行 様(2022.2.4)

■熊本工業専門学校

S20 年卒 晦日 博 様(2020.11)

S23 年卒 坂本 信生 様(2022.4.5)

S25 年卒 桑田 博文 様(2023.7.25)

S26 年卒 安本 正 様(2023.6.15)

S22 年卒 宮本 保 様(2023.11.18)

S24 年卒 永井 益男 様(2022.8.27)

S25 年卒 住吉 十九四 様(2022.3.20)

■熊本大学工学部

S30 年卒 岩下 博 様(2023.8.4)

S34 年卒 三宅 秀隆 様(2024.2.10)

S37 年卒 重藤 宗之 様(2022.9.18)

S39 年卒 津山 和則 様(2023.2.21)

S39 年卒 本告 通泰 様(2023.7.14)

S40 年卒 藤原 博信 様(2024.1)

S44 年卒 滋野 孝三 様(2021.5)

S47 年卒 吉田 隆一 様(2023.2.24)

S50 年卒 野口 康広 様(2023.6)

H1 年卒 坪浦 伸泰 様(2022.5.19)

H7 年卒 岡田 久子 様(2023.1.27)

S34 年卒 中島 義幸 様(2023.5.8)

S34 年卒 渡邊 正義 様(2022.8.6)

S38 年卒 鷹尾 武 様(2023.8.31)

S39 年卒 益永 弘美 様(2020)

S39 年卒 社 一弘 様(2023.8.25)

S42 年卒 杉野 毅明 様(2023.7.17)

S47 年卒 山内 鐵雄 様(2023.4)

S50 年卒 児玉 宏紀 様(2024.1.6)

S55 年卒 兵藤 公男 様(2021.12.10)

H6 年卒 是永 直樹 様(2023.8.4)

■旧職員

教授 櫻田 一之 様(2023.8.8)

皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げます

## 教職員紹介

教員氏名（研究室名）	職名	近況
尾上 幸造 (環境建設材料研究室)	教授	昨年は工業会宮崎支部懇親会でお世話になり有難うございました。このコーナーに書いたことがきっかけで彦しゃん会にもこれまで通算 3 回参加させていただき、多くの OB の方々とのご縁がありました。引き続きよろしく願いいたします。
柿本 竜治 (地域公共政策研究室)	教授	Covid-19 を言い訳に、ここ数年、運動さぼっていたので、少し体を動かすと膝や腰が痛くて痛くて、これから錆落とし頑張ります！ただ、この 4 月に私もとうとう還暦を迎えたのでねえ。
川越 保徳 (水質環境学研究室)	教授	自分で珈琲豆を煎るようになってからはや3年。好きこそものの…の諺を信じたい今日この頃です。
佐藤 晃 (深部地下環境工学研究室)	教授	2024 年度土木建築学科学科長を拝命しました。半導体ブームで沸き立つ熊本ですが、熊本をはじめ世の社会基盤を支えるべく、当教室の役割や存在意義を広く学内外へ情報を発信していきたいと思ひます。
重石 光弘 (複合材料研究室)	教授	人材育成と人材獲得のための良策を立てることが喫緊の課題となっているのは建設業界に留まらない — 今こそが教育の力の見せどころなのだ
竹内 裕希子 (地域防災研究室)	教授	10 月 19-20 日に第 9 回防災推進国民大会「ぼうさいこくたい」(内閣府主催)が熊本市で開催されます。世話人をお引き受けし大変ながらも多くの方との出会いや再会、そして議論を楽しんでいます。九州初開催となりますのでぜひお越しください。
張 浩 (河川環境研究室)	教授	今年は稲垣助教を新たに研究室のメンバーに加えしました。私自身も学長特別補佐としてグローバル業務を担当する事になりました。これにより心強くなりましたが、同時に背負う責任の重さも感じています。
星野 裕司 (景観デザイン研究室)	教授	「自然災害と土木デザイン」(農文協)と「土木デザイン ひと・まち・自然をつなぐ仕事」(学芸出版社)の 2 冊で、令和 5 年度土木学会出版文化賞をいただきました。みなさまもぜひ、ご一読を！！
松村 政秀 (構造システム研究室)	教授	球磨川の橋梁建設もはじまり、卒業生と会う機会も増えてまいりました。来年は全国大会@熊大にてお会いできますことを楽しみにしております。
円山 琢也 (交通政策分析研究室)	教授	自分が学生だった就職氷河期と比べ、人手不足で売り手市場の今の学生をうらやましく感じます。しかし、どのような状況でも学生が自分の価値を高められるよう支援したいです。
皆川 朋子 (河川/流域デザイン研究室)	教授	高校生へ土木の魅力を伝えるとともに、博士後期の学生さんを増やすための検討を先生方と行っています。博士後期課程にご関心のある OB・OG の皆様、お気軽に教員にご相談いただければと思います。
棕木 俊文 (環境地盤工学研究室)	教授	2024 年度 4 月から地盤研が一新しました。来年 9 月に土木学会全国大会を熊本でやりますので、同窓会も兼ねて皆さん是非集まってください。
石田 桂 (水文研究室)	准教授	今年度は 4 年生の担任です。長かった担任業務も終わりが見えてきました。豪雨による災害が起こらないことを願いつつ、研究にも力を注いでいきたいと思ひます。
金 洙列 (海洋海岸工学研究室)	准教授	2 年生の合宿研修の準備でお世話になり感謝しております。また、他のイベントの準備で今年度も忙しい日々を送っていますが、今年度は去年より研究に取り組む時間を増やせるよう頑張りたいと思ひます。
オノ木 敦士 (地下空間工学研究室)	准教授	今年度は 3 年生担任を仰せつかっております。インターンシップ講演などで多大なご協力を賜りまして、この場をお借りして御礼申し上げます。3 年生がインターンシップでお世話になるかと思ひますが、何卒よろしく願い申し上げます。
高野 大樹 (地下空間工学研究室)	准教授	20 年ぶりの熊本での生活、今のところ最高です。しかし大学の周りもずいぶん変わってしまい、学生時代よく通った店にはほぼ無くなっていました。皆様、大学へも是非お越しください。
田中 尚人 (地域風土計画研究室)	准教授	熊大 19 年目になる今年、熊本地震から 8 年、阪神・淡路大震災からは 30 年が経とうとする今年、ようやく covid-19 が落ち着きを見せ、いろいろな現場が活発に動き始めました。一期一会を大切に一つ一つ丁寧に、ことに当たります。

## 2024 年度 熊本大学 蘇遙会情報誌

吉城 秀治 (地域・交通デザイン研究室)	准教授	熊大3年目の今年は1年生担任をしております。2024年度の入学生、この先にかとお世話になるかと存じますが、よろしく願いいたします。
安藤 宏恵 (地域公共政策研究室)	助教	今年は1年間スイス・スウェーデンに滞在させていただいております。新しいことをたくさん吸収して熊本に戻って来られるよう、楽しみながら頑張っています。周辺国へお越しの際は、ぜひお声かけください。
伊藤 紘晃 (水質環境学研究室)	助教	先日、約8年ぶりに海でサンプリングしてきました。1回目は無事だったものの、2回目で船酔いしてしまいました。船に乗る時はコンディションを整えなければ…サンプルは採取できたのでよかったです。
稲垣 直人 (河川環境研究室)	助教	新任教員として大学の職務にいち早く慣れ、100%の力を発揮できるよう努めます。また同時に、一熊本市民として熊本での新生活を楽しみたいと思います。
渡部 慎也 (構造システム研究室)	助教	熊大に来て1年が経ちました。新しい環境に戸惑いの連続でしたが、教職員、学生の皆様のお力添えもあり、少しは熊大カラーに馴染めたかな？と思っています。引き続き、精進してまいります。

★皆川教授は令和6年4月1日付で、教授に昇任されました。

技術部・事務補佐員	友田 祐一	技術専門員	池田 郁子	尾上研究室秘書
	吉永 徹	技術専門員	園山 恵	佐藤、オノ木研究室秘書
	外村 隆臣	技術専門職員	小川 香名子	星野、円山研究室秘書
	上田 誠	技術専門職員	下田 万里	棕木、高野研究室秘書
	橋本 淳弘	技術職員	中島 幸香	皆川研究室研究員
	松木 翔二郎	技術職員	西 智美	金研究室秘書
	友田 桂子	土木建築工学科土木系事務室	藤内 英子	蘇遙会事務局

### 新任のごあいさつ

高野 大樹      たかの だいき (地盤工学研究室)



2024年4月1日付けで熊本大学先端科学研究部に准教授として着任しました高野大樹と申します。

1998年に熊本大学工学部環境システム工学科に入学し2008年3月に博士過程を修了するまで熊大に在籍(大谷研です)しておりました。約20年ぶりに母校にお世話になることとなりました。博士号取得後は、フランス国立科学研究センター・グルノーブル大学・3SR研究所で3年間ポスドクとして勤務し、帰国後は国土交通省所管の港湾空港技術研究所にて15年間勤務しておりました。専門分野は、地盤工学や地盤防災工学など地盤に関する分野です。粒状体材料の力学挙動、高レベル放射性廃棄物の地層処分に関する研究、沿岸域軟弱地盤の高度利用技術の開発などの研究開発に加え、港湾基準の改訂、直轄プロジェクトへの技術支援など、地盤工学を通じて多岐にわたる業務に携わる機会に恵まれました。

今後は、これまでの経験、ネットワークを活かし、産官学それぞれの強みを生かした連携強化や国際的な研究開発活動を加速して行く所存です。また、学生の教育も重要な仕事になると認識しております。これまでの経験を次の世代に引き継ぎ、国際的に活躍する卒業生を輩出するべく、研究、教育に励みたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

稲垣 直人 いながき なおと（河川環境研究室）



この度、2024年4月1日付けで熊本大学大学院先端科学研究部・助教に着任いたしました。海岸工学を専門としており、2023年3月に早稲田大学で博士（工学）を取得しました。これまでは、高波や高潮に関連した流体现象・沿岸防災をテーマに、数値計算・水理模型実験・現地調査を組み合わせた研究を展開してきました。現在、熊本大学では河川環境研究室に所属しており、海岸だけではなく河川にも研究の幅を広げ、水圏の課題を包括的に考える貴重な機会をいただいております。

私は長く東京で過ごしましたが、母方の郷里が佐賀県唐津市であることから、幼少よりこの地を訪れる機会が度々ございました。長期休みの度に海や川で日が暮れるまで遊んでいた思い出が、私に土木工学・海岸工学への道を歩ませてくれたのだと思います。そうして長い間、第二の故郷と思い続けていた九州地方の多くの皆さまに貢献できる機会を得られたことが大変嬉しいです。

着任して日が浅いものの、土木系教室の温かい心遣いと団結力を強く感じています。先生方・卒業生を中心に社会に貢献しようという気概に満ち溢れているのは、この教室が長く紡いできた歴史と伝統によるものだと思います。若手の教員として、それらを引き継ぎ、更に先を築いていく気概で取り組んでいく所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

### 会費納入と寄付のお願い～先輩から後輩へ応援のエールを～

蘇遙会は在学生への支援として、蘇遙会の会費収入と寄付金により蘇遙会学生部活動費を拠出しており、それを受けて学生部は新入生歓迎会などの懇親会の開催、運動会、紫熊祭(大学祭)への参加などの活動を行います。他県から親元を離れて進学してきた学生や、なかなか大学になじめない学生などの不安を払拭し、仲間意識を強め、ひいては学業や日常生活に前向きになれるような活動に力を入れています。皆様のご理解とご協力をいただき、後輩である在学生たちに多くのご支援を賜りたく、会費の納入と寄付をお願いする次第です。どうかよろしく願い申し上げます。

「会費および寄付金の払い込みについて」詳しくはこちら↓

[https://www.web-dousoukai.com/soyoukai/?page\\_id=53](https://www.web-dousoukai.com/soyoukai/?page_id=53)

《 振込口座名：蘇遙会 》

(ゆうちょ銀行もしくは郵便局で手続きする場合)

記号・番号：01940-5-42638

(他の銀行等の金融機関から振り込む場合)

銀行名：ゆうちょ銀行(金融機関コード9900)

店名：一九九店(イチキュウキュウ店)(店番199)

種目・番号：当座・0042638



**【注意】赤い振込用紙以外で払い込む時、お名前と一緒に ID または卒年と払込内容(会費1年、3年、5年分、終身会費、寄付)がわかるよう、記載をお願いします。**

〈ATMで会費1年分と寄付金を払い込む時〉  
ソヨウ タロウ 45000000 1ネン キフ

## 研究室配属人数および学部 1～3 年生の学生数 (2024 年 4 月現在、休学、10 月入学生、社会人ドクター等を含む)

研究室 (担当教員)	学部 4 年	修士 1 年	修士 2 年	博士 1 年	博士 2 年	博士 3 年	研究員・他	合 計
環境建設材料研究室 (尾上)	4	3	3					10
水質環境学研究室 (川越、伊藤)	4	2	3					9
深部地下環境工学研究室 (佐藤)	4	2				1		7
複合材料研究室 (重石)	4		1			1	1	7
地域防災研究室 (竹内)	4	3	1		1			9
河川環境研究室 (張、稲垣)	6	2	1				1	10
交通対策分析研究室 (円山)	4	4		1		1	1	11
河川/流域デザイン研究室 (皆川)	4	6	2			2	4	18
環境地盤工学研究室 (椋木)	3		3	1		1		8
地下空間工学研究室 (オノ木)	3	2	1	1			2	9
地下空間工学研究室 (高野)	3							3
地域風土計画研究室 (田中)	4	5	3			3		15
地域公共政策研究室 (柿本、安藤)	4	2	4	2				12
景観デザイン研究室 (星野)	4	5	4			1		14
構造システム研究室 (松村、渡部)	4	5	3	1		1		14
水文研究室 (石田)	3	1	1					5
海洋海岸工学研究室 (金)	3	3	3	1			1	11
地域・交通デザイン研究室 (吉城)	4	2						6
合 計	69	47	33	7	1	11	10	178

学部 1～3 年生の 学生数	1 年	土木建築学科(コース選択前)	120	1 年生は土木建築学科入学生の総数です。2 年生進級時に「土木工学」、「地域デザイン」、「建築学」の 3 つのプログラムにコースが分かれます。蘇遙会学生会員対象は「土木系」の学生であり、土木工学プログラムコースおよび地域デザインプログラムコースの学生となります。また、改組前入学の一部の学部 4 年生は、社会環境工学科卒業となります。
	2 年	土木建築学科土木工学プログラム	39	
	2 年	土木建築学科地域デザインプログラム	27	
	3 年	土木建築学科土木工学プログラム	44	
	3 年	土木建築学科地域デザインプログラム	30	
		卒研未着手	18	

## ◆令和 6 年 3 月 学部卒業生進路【順不同】

国土交通省九州地方整備局、大分県、熊本県、宮崎県、長崎県、鹿児島市、佐世保市、周南市、国公立大学法人長崎大学、熊本県立大学 緑の流域治水研究室、(株)大林組、大成建設(株)、前田建設工業(株)、世紀東急工業(株)、西松建設(株)、三井住建道路(株)、タマホーム(株)、(株)シー・バス・プランニング、(株)オリエンタルコンサルタンツ、福山コンサルタント(株)、(株)荒谷建設コンサルタント、西日本鉄道(株)、熊本大学大学院自然科学教育部博士前期課程、キヤノンマーケティングジャパン、帰国・その他

## ◆令和 6 年 3 月 大学院(前期・後期)卒業生進路【順不同】

大分県、熊本市、公立大学法人北九州市立大学、福岡大学工学部、(株)奥村組、清水建設(株)、鹿島建設(株)、大成建設(株)、日本工営(株)、(株)エイト日本技術開発、(株)福山コンサルタント、シー・バス・プランニング(株)、八千代エンジニアリング(株)、三井共同建設コンサルタント(株)、(株)建設技術研究所、日本工営都市空間(株)、NEXCO 西日本コンサルタンツ(株)、(株)横河ブリッジ、オリエンタル白石(株)、九州電力(株)、オルガノ(株)、西部ガス(株)、西部ガス都市開発(株)、KDDI(株)、SCSK(株)、公益財団法人 鉄道総合技術研究所、独立行政法人都市再生機構、熊本大学大学院自然科学教育部博士後期課程、(株)ワークヴィジョンズ、帰国・その他



## 蘇遙会学生部

### 2024 年度学生部コンセプト

学部 3 年 学生部部长 仁戸田 尚

#### 「盛り上げる」

今年度のコンセプトは「盛り上げる」です。今年ではできるだけたくさんの人を行事に呼び、楽しい蘇遙会を目指します。学年の交流を増やし、つながりを強くすることで土木、地域デザインプログラムに蘇遙会という団体を浸透させることができるように頑張ります。

### 活動報告

学部 3 年 学生部書記 山村 真子

#### 新歓イベント「BBQ」

5 月 19 日、新入生を歓迎する BBQ を白川の河川敷で開催し

ました。1 年生と他学年の交流がある初めてのイベントでしたが、多くの学生に参加していただきました。1 年生は初めての蘇遙会イベントで最初こそ緊張気味でしたが、先輩たちとの交流を経て沢山の笑顔を見ることができました。同じ学科の先輩からの単位や授業の話、進路の話などを直接聞ける機会はなかなか無いので学年を超えてそのような話ができていたのは、実のある行事になったかと思います。

### 就活・院進学体験記

※この記事内容は 2024 年 7 月時点のものです。

学部 4 年 田川 峻太

私はコンサルと公務員の二つの業種で迷っていたため、公務員とコンサルの両方で就職活動を行い、最終的に公務員になることを選択しました。

はじめに、私が就職活動を行った中でやってよかったと思うことは「とにかくいろいろな人から話を聞く」ということです。私はインターンシップ先の社員・職員の方や就活を経験された先輩方にお聞きすることが多かったです。就職活動を行う中で、迷うことや不安なことがあると、どうしても自分一人で正解を出そうとしてしまいがちですが、自分で考えても答えが出ないときには自分よりも多くの経験を持つ人に聞くことで新たな選択肢が見つかったり、自分が迷っていたことに対しての見方が変わることがあります。

次に、私が後悔していることは就職活動を始める時期が遅く、企業や行政の採用試験の時期になっても志望する進路を悩んでいたことです。私は3年生の冬に志望する業種が定まっておらず、3年生の冬からコンサルを何社か、4年生の4月からいくつかの自治体の採用試験を受験し、かなりハードなスケジュールでした。正解がなく、とても難しいことではありますが、自分はどのような仕事したいのか、自分が働くなかで何を大事にしたいのかを早めに整理して志望する業種を定めることで、もっと余裕をもって就職活動を行うことができたと思います。

最後に、自分が選んだ選択を自分の中の正解にできるように、来年から頑張りたいと思います。就職活動をされる皆さん、頑張ってください。応援しています。

#### 学部4年 秦野 真菜

私は学部入学時から大学院への進学を決めていました。関心のあふる事象について学ぶ期間が2年もあれば、学部卒に比べてより専門的な知識を身につけた状態で就職することができるからです。研究に好きなだけ打ち込むという経験は、一度就職すると滅多に得られないと思います。この期間で身につけた知識や技術、経験は必ず自分に良い影響を与えると考えたのでずっと大学院進学を志していました。

進学は既に決まっていますが、インターンシップ講演会に参加し、就職を考えている企業のリクルーターの方に就活に関して様々なアドバイスを頂いています。現時点ではゼネコンへの就職を希望していますが、他業種理解のためにコンサルへのインターンシップも考えています。

私は3年次に技術士一次試験を受けて合格したため、推薦資格を得ることができ、スムーズに進学を決められました。その結果、時間に余裕ができたのでインターンに関する情報収集や卒業研究に多

くの時間を割くことができていると感じています。進学を考えている人は、2~3年次から4年次の過ごし方を考えて技術士一次試験の為に勉強を始めることをおすすめします。

#### 学部4年 古賀 基幹

いつから大学院のことを考え始めたのか正確には覚えていないのですが、高校生の頃から大学院のことを考えていたような気がします。私が大学院に進学しようと決心したのは、大学3年生になって、周りの人が進路を考え始めた頃だったと思います。はっきりとは覚えていません。決断のタイミングは定かではありませんが、大学院に進学しようと思っただけははっきりと覚えています。

それは私が3年生の時に参加したインターンシップで、インターンシップ先の社員さんや修士1年の先輩に話を聞いていたときです。もちろんスタッフの方が業界についての知識が豊富で感心しましたが、大学院1年生の先輩も研究を通じて培った知識を持っています。私よりもはるかに深い質問をされていた修士1年の先輩に衝撃を受けました。私より2年勉強しているので当然ですが、同じ時期に就職活動をしているのに、知識量にこれほどの差があるのかと不安になりました。しかしそれと同時に、とても憧れをかんじて大学院に進み自分も専門知識を取り入れたいと思うようになりました。

その後は就活をしていないのですが、就活を通して自分のことを見つめなおすきっかけになったりと思うので、大学院に進学しようと思っている人も一度就活に取り組んでみるのもいいかもしれません。

---

## 蘇遙会学生部研修旅行について

今年度は、9月15、16日に研修旅行を実施します。一年の活動の中でも規模の大きなものですので身が引き締まる思いで計画を進めております。

昨年度の研修旅行レポートを次頁に掲載しています。また、これまでの研修旅行などの様子は蘇遙会ホームページに載せておりますので、下記URLからご覧ください。

<https://www.web-dousoukai.com/soyoukai/?cat=9>

## 2023 年度 研修旅行レポート



### 2023 年度 学生部部长 中村優志

蘇遙会学生部は 2021 年度ぶりとなる研修旅行を実施しました。目的地は世界文化遺産「天草の崎津集落」であり 9 月 25 日から 26 日の一泊二日の日程でした。

「天草の崎津集落」は長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産の一つであり、崎津集落は教会近くに崎津諏訪神社もあり禁教期に神道、キリスト教といった宗教が共存し特有の文化形態を育んだ歴史と、美しい自然環境と海岸線が魅力的な地域とされており大学の田中尚人先生からのご助言を参考に目的地に選定しました。

参加者は学部 1 年生から修士 1 年の合計 24 名でありレンタカーを利用して移動しました。初日には大学にてガイダンスがあったため 16 時出発となり当初の予定を変更し初日は宿泊地の小島公園キャンプ場へ移動し二日目に崎津での研修を行いました。宿泊地ではバーベキューと花火を通して



学生同士の親睦を深めました。学部 1 年生の参加が多く上級生に学業面での相談から私生活面でのことまで様々に盛り上がり、交流会としては十分に楽しむことができました。

崎津集落では教会の見学と資料館にて職員の方から崎津集落が世界文化遺産に登録された歴史的背景や禁教期特有の信仰形態と漁村の地域性が融合した信心具などについて説明をいただきました。また、崎津の美しい景観と調和する砂防や広場、道の駅といった公共事業施設を巡り歴史・文化の尊重と防災や開発を融合させたデザインについて研修しました。

今回の研修旅行は 2018 年度・2021 年度のダム見学といった土木分野に特化した研修とは異なり、地域の文化と景観に触れて土木だけでなく地域デザインの重要性を確認する良い体験ができた研修であったと思います。

今回は一泊二日と比較的長い時間、参加するにはハードルが高いのではないかと心配していましたが初参加の 1 年生も多く継続して参加してくれた上級生の助力もあり土木系学科に進むメリットや楽しさと蘇遙会を強くアピールできたと感じています。今後も様々な活動を計画し学年を超えて学科を盛り上げていきますので暖かく見守っていただくと幸いです。

## 在学生の声

- 夏のインターンを頑張りたいです。
- インターン講演会で実際に働いている方の生の声を聴くことでうれしい。
- 今年のΣ祭が楽しみです。
- 蘇遙会を通じて先輩たちと交流を深めることができよかった。
- BBQ 楽しかった。友達ができたので嬉しかったです。
- インターン講演会を通して自分の将来について真剣に考えられるようになったのでよかったです。
- 土木工学実験で新しく友達ができ、一緒に助け合えてよかった。
- BBQ の後の飲み会が楽しかった。
- 蘇遙会の活動を通して新しく友達ができたので、また次の行事が楽しみです。